

令和2年9月

## 県新型コロナウイルス感染症対策本部へ職員派遣

沖縄県における新型コロナウイルス感染症は4月30日の感染者確認を最後に68日間のゼロ更新を続けていたが、7月8日に新たな感染者を確認後は、4月には一日で最高12名であった感染者数を大幅に更新し、8月9日には158名を記録した。



関係各機関と調整に当たる赤十字職員



県庁講堂の対策本部

沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部は、7月8日以降新規感染者が増加したことを受け、日本赤十字社沖縄県支部に対して支援を要請し、当県支部は他機関に先駆けて職員を派遣した。

現在にいたるまで継続して派遣を行い、県内の各医療機関や厚労省、自衛隊、海上保安庁、DMAT等と共に県コロナ本部の業務にあたっている。

## 新型コロナウイルス第二波 血液事業に影響



通常よりも距離を保った献血スペース

沖縄県においても、8月17日時点において、8団体、9台分の献血バスの配車が中止や延期となっており、計画から約160名分の400mL献血血液が賄えていない状況にある。

県赤十字血液センターでは、その穴埋めとして、急遽県内のスーパーや商業施設駐車場への献血バス配車を行っているが、厳しい状況が続いている。

いったん収束していた新型コロナウイルスが7月8日に新規陽性者が確認された以降、第一波の時と同様に献血協力団体からの献血受入れ中止の申し出が急増している。

現在、沖縄県が属する九州ブロック圏では、7月の九州地方の豪雨災害も発生している状況もあり、計画通りの採血が行えていない。

### 【献血会場における感染症対策】

- ・全来場者への検温、手指消毒、マスク着用依頼実施
- ・バス内における飛沫感染防止対策
- ・献血会場にて待合スペース等を通常よりも広く確保
- ・予約受付にて混雑緩和(くもじルーム、一部献血バス)
- ・職員の検温等体調管理の徹底